

# 健康で夢があり誇れる上市来

## 上市来地区公民館（日置市）

### 現状及び課題

上市来地区は、日置市東市来町の東側に位置し、8自治会で構成される中山間地域で、全国の農山村共通の悩みである過疎化、少子高齢化、そして農林業の不振などの課題に直面している地域である。

そこで、平成21年度から「上市来ふるさと豊年（ほぜ）祭り」を開催し、地区住民の交流や地域の活性化を図っているところであるが、地区内の自治会の会員数も減少する中、これまで以上に地域間の連携を深め、地区公民館を拠点とした地域づくりが必要である。



上市来ふるさと豊年祭り

### 活動内容

特色あるむらづくりに向けて、平成22年度は薩摩川内市大馬越地区・姶良市北山地区、平成23年度は日置市吹上地区・坊野地区といったむらづくり先進地区を視察し、むらづくりの手法を学ぶとともに、地域再生への意識を高めた。

第3回を迎えた「上市来ふるさと豊年祭り」は、地区公民館の産業振興部と文化教養部を中心に、地区住民・農業者が協力し開催している。地元の子どもの踊りや合唱、江戸時代の地元民話「銚（ほこ）どんの松」の紙芝

居上演といった多彩な催し物や地元農産物の品評会、直売コーナー、湯之元温泉の足湯設置等により、地区内外から多くの住民が訪れ、地域間・世代間の交流を図ることができた。

また、産業振興部は、地域の特産品づくりを目指し、しょうが栽培を開始する等、新たなむらづくりの形成に向けた取組が活発化した。

北山自治会では、お盆の伝統行事「北山の火振り」を行った際に、初めての試みとして地区公民館主催による花火大会を同時開催し、好評を博した。

11月には「史跡めぐり歩こう会」を開催し、小中学生と高齢者が一緒に地区内の史跡や特産品の施設をめぐり、地域の歴史・文化に対する理解を深めた。さらに、特産品や地区内の史跡を広くPRするため、特産品・史跡マップを作成し、イベントで配布した他、地区公民館前に看板を設置するなどして、むらづくりの維持発展に努めた。

また、子ども会と高齢者クラブの交流を行いながら地区内の花壇づくり等美化活動に取り組んだ。



北山の火振りと花火大会

## 共生・協働の状況

「ふるさと豊年祭り」や花壇づくりは、地区公民館を中心に子ども会・小中学校・高齢者クラブが協働して実施している。

## 成 果

「ふるさと豊年祭り」の開催による地域内の交流と地域活性化、特産品・史跡マップの作成・看板設置と史跡めぐり歩こう会の開催による歴史・文化の活用、特産品づくりの取組や野菜づくり・直売推進による高齢者の生きがいつくりの取組などにより、地域間の連携強化や高齢者も参加した地域づくりにつながっている。



特産品・史跡を紹介する看板

## 今後の課題と展望

上市来地区公民館では、地域の活性化のために「健康で夢があり誇れる上市来」を目標に掲げている。

厳しさを増す地域農業において、農事組合法人田代ビレッジ（特定農業法人）や養母営農生産組合（特定農業団体）を中心とした地域営農の仕組みづくりが期待される。

また、しょうがを使った新たな特産品づくりを進め地域活性化を図るとともに、公営住宅の建設等による若者の定住化を図っていき

たい。

そして、高齢者はもとより、地区住民が生き生きとした生活を送れる環境を地域で作る必要がある。

## リーダーの感想

リーダー 谷山 泰洋氏

プロフィール

- ・元東市来町職員
- ・元元養母自治会長
- ・平成23年 上市来地区公民館館長に就任

「このむらづくり支援事業を導入したことで、話し合いの機運が高まり、『上市来ふるさと豊年祭り』の開催や、地域の特産品づくりとして、しょうが栽培の奨励に取り組みました。今後はしょうがの生産拡大と若者の定住化等にも取り組みたいと思います。」



## 地区情報

- ・構成集落  
銚之原，立和名，荻，北山，上床，田代，梅木，元養母（8集落）
- ・人口構成  
(1) 総人口 1,481 人  
(65歳以上の割合 39%)  
(2) 総世帯数 633 戸  
(うち農家戸数 286 戸)
- ・総土地面積： 2,223 ha  
耕地面積： 245 ha
- ・主要作物  
水稲，茶，甘しょ，柑橘，いちご

## 問い合わせ先

日置市東市来支所産業建設課

電話番号：099(274)2111(代)

鹿兒島地域振興局農林水産部農政普及課

電話番号：099(805)7273

# 住む人も訪れる人も心安らぐ自然豊かなふるさとづくり

## 高山地区公民館（日置市）

### 現状及び課題

高山地区は、日置市東市来町の北側に位置し、桑木野・尾木場・郷戸・野下・高塚東・高塚西の旧6自治会で構成されている。農業は稲作中心で、畑では主に自家消費用の野菜を栽培している。高齢化率60%を超えた地区の存続を図るため、平成22年3月に旧6自治会が統合し、高山地区公民館が発足した。

自治会の統合により、これまで以上に高齢者や独居老人世帯への心配りや地域間の連携強化が求められることとなった。



高齢者の送迎支援

### 活動内容

高山地区公民館が発足後、「住む人も訪れる人も心安らぐ自然豊かなふるさとづくり」を目標に、地域再生に向けて取り組み始めた。

同公民館では、高齢者を対象とした健康教室・料理教室の開催や、高齢者が次世代に郷土の味を伝える伝承料理教室を開催することにより、高齢者の健康・生きがいがづくりや地域間の交流を図っている。加えて、独居老人世帯へのボランティア弁当の配布や、各種イベント時には、高齢者や足が不自由な方々等の送迎支援を行っている。

また、地区公民館（高山小学校跡地）を滞

在型の研修施設としたことにより、地区内の子どもや大人が利用するだけでなく、地区外の方々も訪れる交流拠点となっており、年間約7,000人の利用がある。

「めだかの里づくり」として、尾木場の棚田では、年間を通した米づくりを体験する「尾木場めだかの里米づくり体験」、わらび・つわ採りやたけのこ掘りを体験する「尾木場めだかの里散策&山菜狩り」を開催し、都市と農村の交流活動を主体とした新たなむらづくりの形成にも取り組んでいる。

さらに、地区内の史跡・名所を掲載した地域マップや案内看板の作成を通じた地域資源の再発見、年6回程度の棚田周辺の草払い等により、地域の維持・発展に努めている。



高齢者を対象とした料理教室

### 共生・協働の状況

地区公民館役員を中心に、青壮年部や婦人部の熱心な活動や行政の支援のもと、高齢者や独居老人世帯に対する地区公民館の活動説明や参加呼びかけを積極的に行い、これらの方々交流の場へ進んで参加できる環境を整えた。

また、毎月、高山むらづくり協議会役員会を開催し、問題点を話し合い、解決方策などを検討する体制を築いた。

## 成 果

記念すべき第10回を迎えた「高山ふるさと秋まつり」では、地域住民が全員参加して、一人一役を任された。また、尾木場の田の神まつり・郷戸のマス釣り・野下のかずら工房といった体験イベントや地元農産物の直売に取り組んだ。

これらの、都市住民との交流や地産地消を推進することにより、地区に新たな活力が生まれてきていると実感できた。



高山ふるさと秋まつり

## 今後の課題と展望

今後、ますます高齢化が進んで行く中、同じ境遇にある他の地域のモデルとなるような地域づくりを目指し、NPO等との協働による送迎支援についても地区の同意を得ながら取り組む意向である。

営農面では農地の維持管理に向けた話し合い活動の継続が必要である。

地区住民一人一人が地域を愛し、知恵を出し合い、地区公民館を拠点としたむらづくりに力を入れ、ふるさとの素晴らしい自然や文化・歴史を生かした体験型交流に積極的に取り組むことで、さらなる地域の活性化に繋がると考えている。

## リーダーの感想

リーダー 鮫島 育朗氏  
プロフィール

- ・ 旧東市来町町議会議員
- ・ 平成19年 高山地区公民館館長に就任

「高山地区は高齢化が進み、49世帯が独居ですが、ふるさと秋祭りやめだかの里づくり等、地域活性化のために努力しております。



関係者の協力を得ながら、NPO等との協働にも取り組み、1年でも長く、むらづくりを推進していきたいと思っています。」

## 地区情報

- ・ 構成集落  
桑木野、尾木場、郷戸、野下、高塚東、高塚西（6集落）
- ・ 人口構成  
(1) 総人口 224 人  
(65歳以上の割合 63%)  
(2) 総世帯数 135 戸  
(うち農家戸数 21 戸)
- ・ 総土地面積： 1,187 ha  
耕地面積： 15 ha
- ・ 主要作物  
水稲、いちご、飼料作物、生産牛

## 問い合わせ先

日置市東市来支所産業建設課

電話番号：099(274)2111(代)

鹿兒島地域振興局農林水産部農政普及課

電話番号：099(805)7273

# 地域資源(人・農地・文化等)の魅力を活かした新西方地区の活性化 新西方むらづくり推進協議会(指宿市)

## 現状及び課題

新西方地区は、指宿市の北東部に位置し、6集落で構成されている。

農業面では、指宿の代表的な農産物であるオクラやそらまめなど収益性の高い農産物を生産している。また、農産加工組合を設立し、オクラを加工した「オクラ漬」を生産・販売するなど、6次産業の礎を築いている。

生活面では、毎年、「新西方区民まつり」や「六月灯」を開催して伝統芸能である棒踊りや士官節を次の世代に継承しながら、各行事で披露している。

本地区では、「農地が小さく機械の作業効率が低い」、「高齢化による加工組合員の減少」、「新規就農者の減少」、「各種行事のマンネリ化」などが課題となっている。



新たな農産物加工品開発に関する学習会

## 活動内容

平成24年で35回目を迎える新西方区民まつりを開催し、地区住民の交流を図った。

また、EM団子による湊川の水質浄化を図ったり、花壇の整備や芝ザクラの植栽を行ったりすることで環境美化活動を推進した。

さらに、6次産業化を推進するため、グア

バの植栽を行い、鹿児島大学の試験場等と連携しながら研究を進めている。

さらに、士官節や棒踊りなどの伝統芸能披露や地域の歴史を巡る史跡探訪ウォーク、三世代交流グラウンドゴルフ大会、特産品のオクラ・そらまめを使った新たな農産物加工品の開発、遊休農地の調査などの活動を行った。



EM団子による湊川の水質浄化活動

## 共生・協働の状況

新西方むらづくり推進協議会の営農部門では、「地域営農システム推進委員会」が、生活部門では「健全で活力あるむらの維持発展委員会」がある。

「地域営農システム推進委員会」では、野菜園芸振興会や農産加工組合、JA女性部が中心となり、市の特産品であるオクラ・そらまめを中心とした農業振興を図っている。

また、「健全で活力あるむらの維持発展委員会」では、防犯組合、消防団、PTA、新西方女性部、体育部、老人会、士官節等の各種同好会が形成され、敬老会や六月灯等の地域行事や新西方区民まつり、6次産業化の推進、伝統芸能の継承などを通じた地域の活性化と地域住民の交流を推進している。

## 成 果

新西方区民まつりでは従来の演芸、農産物品評会等に加えて、むらづくり活動の事例発表やパネルディスカッションを行うことで自分達の活動成果を確認することができた。

営農面では、グアバによる6次産業化に向けて、徳之島や大崎町などで研修を行い、遊休農地に苗の植栽を行うなど、事業として確立できるように地区全体で取り組み始めた。

また、史跡探訪ウォークや伝統芸能披露では地域の歴史を再確認するとともに、新たな発見や次世代への継承にもつながっている。

さらに、芝ザクラの植栽やEM団子による湊川の水質浄化等の活動は、地域の景観形成や環境問題に取り組むための良いきっかけとなった。

さらには、特産品のオクラなどによる新たな農産物加工品の開発のために地域資源を見直したり、三世代交流グラウンドゴルフ大会で地域住民の交流を深めたりすることができた。



鹿児島大学植物試験場のグアバ圃場研修

## 今後の課題と展望

高齢化が進む中、新たな地域定住者と新規就農者の確保が望まれている。そのためには、6次産業化を確立し、雇用の場を創出することや、Iターン・Uターン者などが住みやすい環境を整えることが必要となる。

今後も話し合い活動を継続し、地域全体の活性化や様々な課題に取り組んでいく。

## リーダーの感想

リーダー 山崎 誠三氏  
プロフィール

- ・平成21年 自治公民館長に就任
- ・平成22年 区長を兼任
- ・平成22年7月 新西方むらづくり推進協議会会長に就任

「共生・協働のむらづくり支援事業に取り組んだことで、新西方の過去の実績遺産を強みとして再認識し、新西方区民が共通の将来目標『産業として自立する農業の構築及び若者が定住できる地域づくり』が出来ました。目標達成は一朝一夕ではできないと思いますので、区民が一体となって努力していきたいと思います。」



## 地区情報

- ・構成集落  
細田西、細田東前、細田東後、永吉、渡瀬、鳥山（6集落）
- ・人口構成  
(1) 総人口 864 人  
(65歳以上の割合 35%)  
(2) 総世帯数 397 戸  
(うち農家戸数 79 戸)
- ・総土地面積： 64 ha  
耕地面積： 62 ha
- ・主要作物  
オクラ、そらまめ、キャベツ、エンドウ

## 問い合わせ先

指宿市産業振興部農政課

電話番号：0993(22)2111(代)

南薩地域振興局農林水産部農政普及課

電話番号：0993(52)1342

## 子どもから高齢者までみんなで知恵を出す「むらづくり」 永野区むらづくり委員会（さつま町）

### 現状及び課題

永野区は、さつま町の東部に位置し、9公民会で構成されており、標高564メートルの茶屋ヶ岡、永野金山跡地など歴史的財産の残る中山間地域である。

地区の基幹産業は農業で、水稻や肉用牛、南高梅、軟弱野菜等が栽培されており、地元直売所において少量多品目で販売されている。

近年、高齢化率40%以上と町内でも高齢化の進んだ地区である。

7年前から開催している永野金山跡地を活用したウォーキング大会などの都市農村交流活動へ協働して取組、地区民が結の心を持ち続けることが必要である。



永野ウォーキング大会のスタート風景

### 活動内容

永野ウォーキング大会は地区住民の協力のもとで開催されている。地区民総出でコース沿いに菜の花を植栽したり、コースの整備等を行ったりしており、その努力の甲斐もあって、永野ウォーキング大会は年々参加者が多

くなってきている。そのため、今後は受入体制についての話し合いが必要となっている。

また、ウォーキング大会以外にも都市農村交流が行えるように、農家民宿も開業した。

このほか、郷土芸能である「秋津舞（あきつまい）」を小・中学生に継承するとともに、南方神社の「秋の大祭」や永野小学校の運動会で披露している。

### 共生・協働の状況

永野ウォーキング大会の準備（コース整備等）については、地区民が率先して参加しコースは歩きやすく景観も素晴らしいものとなった。大会当日も参加者の出迎えや子ども語り部隊による産業遺跡紹介など住民が多数参加し、大会を盛り上げた。

また、郷土芸能「秋津舞」の次世代への継承のため、地区民が指導者となるとともに、道具の補修については老人会の手伝いをもらうなど、地区が一体となって取り組んでいる。



子ども語りべ隊による産業遺跡紹介

## 成 果

地域活性化の目的で始まった永野ウォーキング大会は、平成23年で7回目を迎えることができた。これは永野金山跡地を中心として永野区内を見て歩くもので、今年は900人の参加があった。

このほか、金山の遺跡を後世に残す取組として、永野金山夜学塾（永野区内の遺跡等の保存・活用により、地域興し活動を行う組織）により収録したDVDを作成した。

さらには、永野に一つしかない郷土芸能「秋津舞」を次世代に継承する体制づくりができた。

このような長年の活動が評価され、平成22年度豊かなむらづくり全国表彰事業において九州農政局長賞を受賞することができた。



小学校運動会における秋津舞の披露

## 今後の課題と展望

今後さらに少子・高齢化が進むことが予想される中、地域の振興を図るため、竹を活用した取組やタケノコ林の整備などを実施していく。活動に必要な資金として、補助金に頼らない新たな財源確保に向けての取組を進め、子どもから高齢者まで「みんなで知恵を出す」むらづくり活動を展開し、結の里づくりを目指したい。

## リーダーの感想

リーダー 原 敬蔵氏  
プロフィール

- ・平成20年 永野区公民館長及び永野区むらづくり委員会会長に就任

「今回の事業を進める中で区民の一体感が生まれ、それぞれが自信を持ったと感じた。これこそがむらづくりの原点と意を強くした。

大きいことを手がけることも大事でしょうが、区民の目線で納得の上で事をなすことこそ目的達成には欠かせない要件であると思っている。

今後とも、区民を中心として無理のない方法で色々な事業を進めて行くつもりです。」



## 地区情報

- ・構成集落  
金山、仕明、新町、吉川、新岩元、駒ヶ段、築平、下別府、南川（9集落）
- ・人口構成  
(1) 総人口 1,122 人  
(65歳以上の割合 45 %)  
(2) 総世帯数 533 戸  
(うち農家戸数 140 戸)
- ・総土地面積： 1,481 ha  
耕地面積： 176 ha
- ・主要作物  
水稻、生産牛、梅、筍

## 問い合わせ先

さつま町担い手育成支援室

電話番号：0996(53)1111 (代)

北薩地域振興局農林水産部農政普及課

電話番号：0993(25)5530

# 明るく快適で住みよい新たなむらづくり

## 永水地区むらづくり委員会（霧島市）

### 現状及び課題

永水地区は旧霧島町の南部に位置し、地域の特性を生かしたレイシ、里芋、茶等の農産物の生産、農地の集団化を図ってきた。山村振興事業、県単むらづくり整備事業、降灰対策事業に取り組み、生産組織の強化や機械の共同化を実施し、効率化も図ってきた。

また山間迫田の水田では、基盤整備や農道、用水路の整備を実施した。そのため、霧島地区の中では認定農業者の増加率や後継者の就農率が最も高い。

平成4年度に永水小学校が創立100周年を迎え、PTAを中心に地区全体がまとまり、山村留学里親制度を県内で初めて実施した。

平成10年度には新・農村振興運動におけるむらづくりの重点地区として指定され、また、長年の要望であった地区公園と農産物販売所を併設整備し、特に同公園は歩こう会やふるさと特産市、山村留学生の親との交流を図る拠点となった。また、無線設備の導入により、情報の発信時の断線不安は解消された。

### 活動内容

「永水ぐるりグルメ歩こう会」や「ふれあい特産市」、「そば作り体験」の開催により地区内外の住民と交流を図った。

そば作り体験では、そばの播種から刈り取り脱穀、そば打ち体験を行った。

また、景観作物の取組活動として、菜の花や彼岸花などの植栽・観賞を行った。

先進地研修においては、鹿児島市の八重の里で農産物の加工・販売状況や運営等について、さつま町では彼岸花の植栽と彼岸花祭り

について、宮崎市では環境について研修を行った。



そばの種まきによる地区住民の交流

### 共生・協働の状況

共生・協働のむらづくり支援事業を実施するにあたり、小学校などの団体を対象に、事業の趣旨等の説明会を行い、周知・啓発を図ったことにより、その後の取組については、地域が一体となって事業を効果的に実施できた。

### 成 果

様々な体験活動、特に米づくり、そばづくり体験事業については、子どもから高齢者まで多くの地区民が素晴らしい体験をし、交流が図られたことで連帯感が生まれた。

また景観作物の栽培など、新しい取組が出てきた。

永水ぐるりグルメ歩こう会では年々参加者が増え、特産品販売所「百笑館」の売上の増加など経済効果もあった。特産品販売や環境に関する取組などの研修も多くの参加者があり、今後その成果が期待できる。



そば打ち体験による地区住民の交流



永水ぐるりグルメ歩こう会

## リーダーの感想

リーダー 木野田 誠氏

プロフィール

- ・平成9年 永水地区むらづくり委員会  
会長に就任

「少子高齢化やPTA戸数の減少など地域のマイナス要因を嘆いているばかりでは何もできない。地区民が一体となって前向きに取り組むべきだと思う。それにはリーダーとそれを支えるサブリーダー的役割を持つ人材育成も不可欠だと思う。そして永水の伝統的な素晴らしい土壌を、自分たちの手でしっかり改良し、新たな魅力ある地域を醸成したい。」



この2年の取組を弾みに、まず地域が一体となって取り組める事業から進め、10年後あるいはその先を見据えた事業の展開を図っていきたい。」

## 今後の課題と展望

山村留学や特認校制度などに取り組むも、少子高齢化の波を止めるには至っていない。

今後、この2年間の取組を一時的なものとして、せずに継続して様々な取組を実施し、永水の良さを情報発信し、定住促進を図り、地域の活性化を根気強く進めていく。

また、前向きに地域づくりを頑張る雰囲気づくりや、リーダー育成をしていくことで、明るく快適で住みよい地域づくりを進めていくこととしている。

## 地区情報

- ・構成集落  
霧島永水（1集落）
- ・人口構成
  - (1) 総人口 636人  
(65歳以上の割合 31%)
  - (2) 総世帯数 281戸  
(うち農家戸数 171戸)
- ・総土地面積： 1,401 ha  
耕地面積： 175 ha
- ・主要作物  
茶、水稲、養鶏、肉用牛、しいたけ

## 問い合わせ先

霧島市霧島総合支所産業建設課

電話番号：0995(45)5111(代)

始良・伊佐地域振興局農林水産部農政普及課

電話番号：0995(63)8146

# 交流活動を通じて地域の活性化を図るむらづくり

## 石井地区むらづくり委員会（伊佐市）

### 現状及び課題

石井地区は伊佐市の北部に位置しており、周囲を山々に囲まれ、集落の中央には川内川の支流山野川が流れている水田地帯であり、水稻を中心に園芸・果樹・畜産を取り入れた複合経営が行われている地域である。

しかし、近年においては、地理的に市街地より離れているため、若者の地区離れや少子高齢化などの要因で農業経営の労働力不足が生じつつあり、将来は耕作放棄地の発生が懸念されている。また、山間部に位置しているため鳥獣被害等も多数発生している。

今後、地区では、どのような形で後継者を確保しながら、集落の中心である農業を守っていくかが早急に解決を図らなければならない課題である。



話し合い活動

### 活動内容

集落内の子供から高齢者までが参加する世代間交流活動として、集落の景観づくり活動や女性部を中心とした料理教室・そば打ち体験を開催した。

その料理教室で覚えた家庭料理を、これまで集落で行われていた八幡神社の祭典や運動会等において集落民にふるまった。

また、伝統芸能の「鎌踊り」を継承するため、神社の祭典の時だけではなく、多数が参加する他の行事などでも披露するなどして、新たな踊り手の育成を図ったり、今後の自主財源確保と農地の有効利用のための活動として、そばの栽培を集落民で取り組んだりした。

これらの活動を集落民や集落出身の地区外居住者などに情報発信するため、広報誌を作成した。



そば打ち体験後の試食会

### 共生・協働の状況

むらづくり委員会では、これまで関係部会の者だけで行っていた活動を、全集落民が参加して活動を行えるようにするため、関係部会が行う活動の打ち合わせに全部会長が参加して、役割分担を行い、集落民が多数参加するようにした。そして、全集落民が参加する行事として、新たに景観づくり活動や「鬼火たき」などに取り組み、子供から高齢者までの世代間交流を図った。

また、各部会長が集まり、話し合いを行な

う機会を設けて、いろいろな集落の問題点を話し合うことにより、集落民全員が共有できる体制をとることとした。

## 成 果

これまで、高齢者が中心となり行っていた景観づくり活動を集落民全体で取り組むことで、若い世代にも集落内の景観に関心が出てきており、現在は集落内の花壇に色とりどりの花が咲き乱れている。

課題であった伝統芸能の「鎌踊り」も従来は子ども禁制であったが、後継者育成のため子ども達の参加を認め、また集落外に住んでいる集落出身者の子どもや近隣の集落からも交流会活動の一環として、踊り手として参加をもらうこととした。その結果、若い世代の踊り手が増えるとともに、集落内の参加者も増加した。

「鎌踊り」は、八幡神社や運動会など集落内の多数の行事で披露され、終了後は、女性部が中心となり、料理教室で勉強した家庭料理の芋煮や手打そばなども並び、地元へ帰省した子ども達や近隣の集落から参加した者が、集落民と楽しいひとときを過ごし、集落内が活気にあふれた。



八幡神社奉納「鎌踊り」

## 今後の課題と展望

今回の活動を地域住民全員で継続していくとともに、農業従事者の高齢化と後継者不足

という課題に、むらづくり委員会を中心として、集落民全員による話し合い活動を行いながら、近隣の集落とともに取り組んでいく必要がある。

## リーダーの感想

リーダー 榎田 耕蔵氏

プロフィール

- ・平成22年度 青壮年部会会長に就任
- ・平成22年度 石井地区むらづくり委員長に就任

「今回の支援事業でそばの栽培から販売活動を行うことで自主財源の基礎ができるとともに、地域の活性化と自立する



機会を得ることができました。今後も、今回の活動を継続するとともに、活力ある地域づくり活動を地域住民一体となって取り組んで参りたいと思います。」

## 地区情報

- ・構成集落  
石井（1集落）
- ・人口構成  
(1) 総人口 164 人  
(65歳以上の割合 55%)  
(2) 総世帯数 75 戸  
(うち農家戸数 41 戸)
- ・総土地面積：  
耕地面積： 55 ha
- ・主要作物  
水稲、園芸、果樹など

## 問い合わせ先

伊佐市農政課

電話番号：0995(23)1311(代)

始良・伊佐地域振興局農林水産部農政普及課

電話番号：0995(63)8146